

（ 城下町高取「土佐街道の町なみ『町家のひなめぐり』」が開催された ）

3月1日～3月31日（午前10時～午後4時）、奈良県高取町で『町家のひなめぐり』（企画・運営：高取土佐街なみ天の川計画実行委員会、主催：高取町観光協会）が開催された。

この催しは、お金も、手間もかからずに来ることから町おこしの企画として考案したもの。

江戸時代から現在までに作られたひな人形が、土佐街道の町並み沿いの約40か所の民家や商店の玄関先や窓際、座敷などに飾られた。人形を飾っている家の前には、「娘が生まれて30年ぶりに蔵から出して飾ったが、無事に保管できてよかった」「戦争中には飾れなかった」など、人形への思いを文書で紹介していた。

また、旧農協の蔵を利用した「ひなの里親館」では、全国から飾られなくなったひな人形を集めて供養している徳島県勝浦町より譲り受けられた人形500体が、展示されていた。

「高取土佐街なみ天の川計画実行委員会」の野村幸治さんは、『町家のひなめぐり』を企画した経緯を次のように話された。

「土佐街道は、江戸時代には城下町の町家を通り、西国第六番札所壺阪寺へ参詣する人々で賑わい、街道の両脇には商店がひしめきあっていた。明治以降も薬の町として栄えていたが、現在は商店も殆ど無くなり、城下町の景観も僅かしか残ってなく、人通りの寂しい町になっている。

通りの賑わいを取り戻すために、住民が楽しく暮らし、お客様に喜んでもらえる町にしたい。住民一人ひとりが町にどんな貢献ができるかを考え、実践するために、今回初めてこの催しを考案した。」

約4,500人の観光客が、3月半ばまでに訪れており、通りに活気が出ていた。観光客が「町並みが美しいこと、おひな様を沢山見せて頂き、たいへん心が豊かになった」「案内される人との会話

が楽しかった」と感想を書いているのを読み、住民の人たちが、町おこしに熱心になっているのを感じた。今後はリピーターが増えていくものと考えられる。（上田）



民家の窓際に飾られたひな人形



「ひなの里親館」500体のひな人形

セミナーだより

●観光振興による地域活性化セミナー（主催：南都銀行）

観光地奈良の生き残り戦略について、スイス ツェルマット日本語インフォメーションセンター代表で国土交通省の「観光カリスマ」に選ばれた山田桂一郎氏が講演。

同氏は、「地域内で時間消費させる」「地域のプ

レミアム・差別的優位性を作る」「来てもらえない理由を突き止める」「奈良でなければならない理由を考える」「地域ブランドを作り上げる」等が重要であると説明した。

（2007.3.5 奈良県中小企業会館にて開催）

本コーナーでは、当センターが後援した講演会・セミナー等をご案内しています。